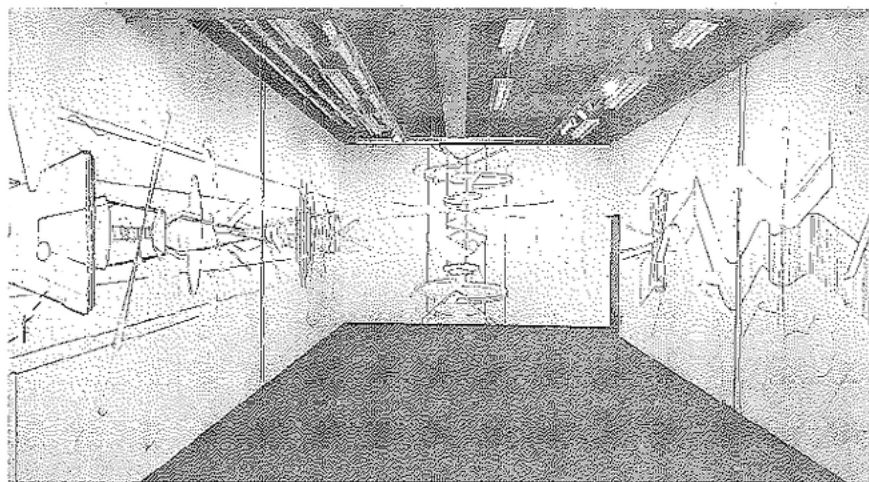


■ Culture



糸で構築する世界 東京で盛圭太展

「線」の始まりは糸——。パリに拠点を置く美術家の盛圭太さん（1981年生まれ）が、そんな仮説を確かめようと、東京都千代田区のアーツ千代田3331で個展を開催している。

道具は糸。部屋の三方の白い壁に、グルーガンで青やグレーの糸の線を打ち込み、幾何学的なドロ잉インクを描くⅡ写真Ⅱ。インターネット空間を思わせる白い2次元の壁の中で、巨大な何かがゆっくりと構築、または崩壊するような世界が眼前に広がる。

「Bug report」

と呼ぶシリーズは、直線と曲線の糸を巡らせ、システム（体系）を構築する。線を加える度に集積する亀裂（バグ）が生まれるわけだが、線の周りに糸の断片が飛散し、コンピューターシステムが壊れた瞬間を想起させる。作品について盛さんは「構築と瓦解の様相をもつ『途上の光景』だ」とコメント。また、それは「あやとりを記録した作品に起源」があるという。無から刹那の形を生む手遊びは、世界の成り立ちにも通じるのか。22日まで。入場無料。

（井上晋治）